

47都道府県プロフィール
2022年9月～2023年6月

山形県

「窓をたてる」って何？ 介護職につく外国人へ、方言マニュアル発行

2023/02/05

日本語は一通り勉強したけど、現場で聞く方言は意味が分からない――。そんな外国人介護従事者らの悩みを解決するため、山形県が「やまがた方言マニュアル」を発行した。外国人技能実習生を中心に介護施設で働く外国人が増える中、働きやすさの改善につなげる狙いだ。

マニュアルでは、「窓をたてる（閉める）」「こわい（疲れた）」「んだ（そうです）」「んね（違う）」など27種類の方言について、標準語と英訳で意味を説明している。置賜、庄内、最上、村山の4地域ごとの言い回しも書き分けた。マニュアルは、県老人福祉施設協議会が作り、県のホームページで公開されている。



[「窓をたてる」って何？ 介護職につく外国人へ、方言マニュアル発行：朝日新聞デジタル \(asahi.com\)](https://www.asahi.com)

実習生送り出し、日印に課題

2023/02/08

人手不足が慢性化する日本の介護の現場にとって、世界最大とされるインドの人口は魅力だ。ただインドは、日本への技能実習生の送り出しでは他国に後れを取っている。取材を通じて、インドでの送り出し機関の少なさや、日本側の受け入れ制度の厳しさといった課題が見えてきた。

日本では外国人を採用している介護施設はまだ少ない。その中でも、インド人は特に少数派だ。2022年6月時点で日本に在留する技能実習生の総数は32万7,000人余りだが、このうちインドから受け入れている実習生は300人余りに過ぎない。国別に見ると、ベトナム、インドネシア、中国が上位を占める。

インドが少ない要因について、技能実習生の送り出しを推進する全日本空輸（ANA）の片桐常弥・インド総代表は「送り出し機関の数が少なく、業界が未成熟」と指摘する。



送り出し機関では出国前に介護など各分野の知識や実技、日本語の教育を行う（NAVIS提供）

[実習生送り出し、日印に課題 - NNA ASIA・インド・経済](#)

外国人労働者が山形で花見 近況など語り合い定着促す

2023/04/20

外国人材紹介のオノデラユーザーラン（東京・千代田）は、特定技能制度を使って山形県内の介護施設で働く外国人らを集め、同県米沢市の松が岬公園でお花見交流会を開いた。定着を目指した取り組みで、ミャンマー出身の14人が参加。桜の花の下で互いの近況などを語り合った。



介護施設で働くミャンマー人らが交流した（山形県米沢市）

[外国人労働者が山形で花見 近況など語り
合い定着促す - 日本経済新聞 \(nikkei.com\)](https://www.nikkei.com)

「傘さし」「2人乗り」海外ではOKなところも...外国人労働者と自転車の交通安全教室 交通ルールの認識の違いも

2023/05/25

山形県東根市で25日、外国人技能実習生に日本の交通ルールを正しく学んでもらおうと、自転車の交通安全教室が開かれました。国や文化の違いから、交通ルールの認識に違いがあり、外国人労働者へのフォローが、重要になりそうです。

これは、天童市の野川商事グループが、勤務する外国人技能実習生に交通安全を守ってもらおうと開いたもので、インドネシアから来日している6人が参加しました。



[「傘さし」「2人乗り」海外ではOKなところも...外国人労働者と自転車の交通安全教室 交通ルールの認識の違いも | 山形のニュース | TUYテレビユー山形 \(tbs.co.jp\)](https://www.tbs.co.jp)

47都道府県プロフィール
2023年7月～2023年12月

山形県

日本や鶴岡の「今」を知る ウエノ藤島工場・ベトナム人実習生にN I B講座

2023/8/1 15:24

山形新聞社が取り組む「学校に新聞を」の企業版「N I B（ビジネスに新聞を）」講座が31日、鶴岡市のウエノ（上野隆一社長）藤島工場で開かれた。ベトナム人技能実習生6人が参加し、日本や地元鶴岡の最新情報をつかむための新聞活用術について学んだ。外国人を対象にしたN I B講座は初めて。

同社は電子機器の誤動作の原因となるノイズ対策用コイルを製造。今年4月からベトナム人実習生を受け入れている。技術を身に付けるだけでなく、日本の文化や社会問題にも幅広く目を向け理解を深めてほしいと、講座を企画した。



ベトナム人技能実習生を対象に開かれたN I B講座＝鶴岡市・ウエノ藤島工場

この日は、山形新聞鶴岡支社の松田直樹支社長が講師を務めた。「本紙には昨年1年間で254回、ベトナムの記事が掲載された」とした上で、サッカー女子W杯に出場しているベトナムの結果や、将棋の藤井聡太七冠がベトナムで棋聖戦を戦った記事に触れた。

8月19日に鶴岡で赤川花火大会が開かれることも紹介。「新聞は母国の最新情報を得るのにも役立つ。会社と自宅の往復だけでなく、ぜひ街に出て新聞に親しみ、充実した生活を送ってほしい」と呼びかけた。

グエン・トゥイ・チャンさん（19）は「少し難しかったが、面白かった。生活にもだんだん慣れてきたので、赤川花火大会をぜひ見に行きたい」、上野社長は「労働だけでなく、人間的な涵養（かんよう）も支えたい。日本を知るいいきっかけになり、本人にとっても会社にとっても有用だった」と語った。

山形県、外国人介護職員の8割が日本語でのコミュニケーションに困難



山形県の調査によると、県内で働く外国人介護職員の約80%が、日本語での会話に困難を感じていることが明らかになりました。

この調査は、今年（23年）8月から9月にかけて山形県内の介護施設で働く外国人職員153人を対象に行われ、ミャンマーやベトナムなど8か国から141人の職員が回答しました。調査結果によれば、日常生活での日本語に関して、「よく困る」「ときどき困る」と答えた割合は合計で79.5%に達し、読み書きに関しても89%が困難を感じていると回答しました。

この問題が介護現場に影響を及ぼしており、「コミュニケーションがスムーズに取れない」「仕事を覚えるのに時間がかかる」といった問題が浮上しています。また、外国人介護職員たちが直面している課題として、「給料が低い」「母国への送金に不足がある」といった収入や経済に関する声が最も多く挙げられました。

一方で、仕事に対する満足度については、「満足」「やや満足」と回答した割合が合計で80%に達し、上司や職員がサポートしてくれることや、仕事にやりがいを感じる事が理由として挙げられています。

これら日本人と外国人のコミュニケーションの課題に対して、様々な対応が地方自治体でも広がっております。

<https://work.yolo-japan.co.jp/11684>

山形県予算要求6622億円、過去4番目の規模に



農業分野では人手不足解消を目的に繁忙期の外国人材の受け入れを始めます。繁忙期の異なる他の農産地から特定技能実習生の受け入れを検討しています。

県は2024年度の当初予算案の編成に向けて、その大枠となる各部局からの予算要求を議会に示しました。

一般会計に関する予算要求の総額は6622億円で、2023年度と比べ194億円減少したものの、過去4番目の規模となっています。

<https://www.yts.co.jp/news/news-164837/>

2023年度日本語教育学会秋季大会一般公開プログラム 外国人技能実習制度に求められる日本語教育 ～誰のため？何のため？～

日本では、少子高齢化等による人口減少を背景に、外国人労働者への依存度が年々高まっています。中でも、外国人技能実習生は、2022年12月末時点で、32万4,940人に上り、外国人登録者数全体の10.6%を占めています。本プログラムでは、外国人技能実習生の日本語能力と日本語学習をめぐる課題に焦点をあて、今後とりまとめが予定されている特定技能の新制度を念頭に置きながら、技能実習生に対する日本語教育はだれが担うのか、受け入れ企業や地域でできる日本語学習支援はどうあるべきかについて考えたいと思います。

日時：2023年11月25日（土）10:00～12:00

会場：山形テルサ1階 テルサホール

定員：先着700名（申込不要） 参加費：無料

主催：公益社団法人日本語教育学会社会啓発委員会

プログラム

「技能実習生入国後講習の意義」

来日直後の実習生と監理団体通訳者によるコメント動画含む

栗又由利子氏（（株）きぼう国際外語学院日本語教育事業部主任講師）

「技能実習生が地域日本語教室に求めること」

藤波大吾氏（岩手地域日本語教育コーディネーター）

「送り出し国の日本語教育状況とその効果」

助川泰彦氏（東京国際大学教授）

進行・趣旨説明：内山夕輝（公益財団法人浜松国際交流協会）

Photo by photoAC ※写真はイメージです

山形県の外国人労働者の約43%を占める技能実習生をテーマに、技能実習生本人のインタビューも交え、日本語学校の担当者、日本語教育コーディネーター、研究者による発題から、求められる日本語教育について考えていきます。

日本では、少子高齢化等による人口減少を背景に、外国人労働者への依存度が年々高まっています。中でも、外国人技能実習生は、2022年12月末時点で、32万4,940人に上り、外国人登録者数全体の10.6%を占めています。山形県では在留外国人の約4分の1が技能実習生です。

本プログラムでは、外国人技能実習生の日本語能力と日本語学習をめぐる課題に焦点をあて、特定技能の新制度を念頭に置きながら、技能実習生に対する日本語教育はだれが担うのか、受け入れ企業や地域でできる日本語学習支援はどうあるべきかについて考えたいと思います。

お問い合わせ 公益社団法人日本語教育学会

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会2F

TEL:03-3262-4291

E-mail:office@nkg.or.jp

URL:http://www.nkg.or.jp/

https://www.nkg.or.jp/event/taikai/20231013_2500632.html

2023/9/28 22:17

県内に住む外国人を対象とした防災研修会が28日、山形市の市民防災センターで開かれ、初期消火や煙からの避難、地震の揺れを体験し、万が一の際の対応を確認した。

フィリピンやインドネシア、インド、米国、韓国などの17人のほか、支援者や企業関係者らが参加した。消火器の扱い方を学び、煙が充満した室内を腰をかがめて脱出。阪神・淡路大震災など過去の大地震の揺れを体験した。

インドネシアから今年5月に来日し特定技能の介護職員として山形市の鈴川敬寿園で働くヘニ・クリスタンティさん（25）とシンディ・ビオニカ・カバンさん（22）は揺れの大きさに驚いた様子で「地震の時は部屋のテーブルの下に潜ると決めている」と口をそろえた。米国出身で県の国際交流員シアン・ライトさん（32）は「煙体験が勉強になった。火事に巻き込まれたら、鼻や口を押さえることを忘れないようにしたい」と語った。

労働力などとして今後、外国人の増加が見込まれる中、習慣の違いや言葉が通じにくいために災害弱者になりがちな外国人に防災意識を高めてもらおうと、県国際交流協会が山形市の協力を得て企画した。県によると昨年12月現在の県内在住外国人は7955人で、前年同期から624人増えている。



県内に住む外国人らが初期消火や煙からの避難、地震の揺れなどを体験し、防災意識を高めた＝山形市・市民防災センター

介護職員 会話困る外国人 8 割 県、日本語学習支援へ

2023/12/08 05:00

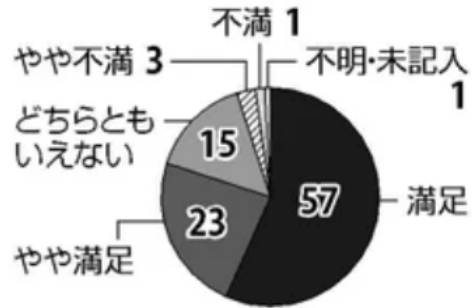
この記事をスクラップする



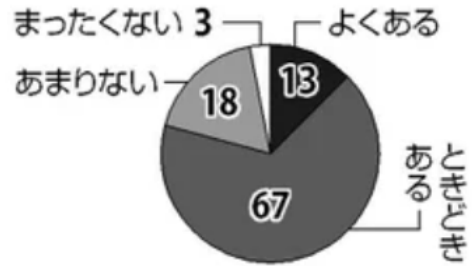
YOL 読賣新聞 オンライン

県内の外国人介護職員に対するアンケート結果

仕事の満足度



普段の生活で日本語での会話に困ること



※県の発表に基づき作成。単位は%で、小数点以下四捨五入。グラフの数値は合計が100%にならないことがある

県内で働く外国人介護職員の約 8 割が仕事に満足しているが、同じく約 8 割の職員は会話に困ることがある——。こういった実態が県の調査で浮き彫りとなった。調査結果を基に、県は来年度、職員の日本語学習や資格取得を支援する予定だ。

県高齢者支援課によると、調査は 8 ～ 9 月、県内の介護事業所で働く外国人介護職員 1 5 3 人を対象に行い、回答率は 9 2 % だった。回答者の国籍別では、ミャンマーが 5 1 人と最多で、次いでベトナム 2 6 人、フィリピン 2 0 人など。

仕事の満足度については「満足」と「やや満足」が合わせて 8 0 % で、理由は「職員が優しく仕事を教えてくれる」「仕事にやりがいを感じる」などだった。

生活の満足度は計 6 8 % が「満足」「やや満足」と回答。「自然が豊か」「周りの人が優しい」などが理由だった。

一方、普段の生活で日本語での会話に困ることが「よくある」「ときどきある」という職員が計 7 9 % いた。普段の生活で読み書きに困ることが「よくある」「ときどきある」も計 8 8 % に上った。

日本語以外で困っていること（複数回答）では「給料の低さ」（1 9 % ）、「母国へ仕送りする金が足りない」（1 7 % ）、「生活習慣の違い」（1 5 % ）などが挙げられた。

国家資格の介護福祉士を取得したのはまだ 1 1 % だが、これから取得を目指す職員が 7 5 % いた。

県は来年度、日本語学習から介護福祉士の資格取得まで、約 1 0 か月間の講座を県外国人介護人材支援センターに設けるなど、支援を拡充する予定という。同課は「充実した支援を実施することで、外国人材が本県へ定着するように目指したい」としている。

<https://www.yomiuri.co.jp/local/yamagata/news/20231207-OYTNT50280/>

外国人を受け入れている企業の先進事例で紹介されました

<https://jac-skill.or.jp/case/yamacon.php>

外国人を受け入れている企業様の先進事例

当社で身につけた技術を我が国で十分に発揮してもらいたい



株式会社ヤマコン

関東支店支店長 柏倉 剛志 氏

山形県にある株式会社ヤマコンでは、2000年から受入れを開始し、現在も多くの外国人を雇用しています。今回は、同社関東支店支店長の柏倉さんとベトナム人のホアンさんの声をご紹介します。

2023年11月13日 15:04



シェアする



ツイートする

Index

- ✓ 受入企業 Interview
- ✓ 現場で働くみなさんの声
- ✓ 受入企業の取組み
- ✓ 距離を縮める工夫
- ✓ 受入れ検討企業へのアドバイス

受入企業 Interview

企業プロフィール

所在地：山形県山形市十文字天神東770

事業内容：コンクリート圧送工事/給排水設備工事/防水工事 など

Website：<http://www.yamacon.jp/>



外国人 **16** 名 / 従業員数 193 名

内)特定技能 3名 / 技能実習生 13名 (すべてベトナム人)



現場で働くみなさんの声

日本での仕事や生活、またこれからの目標について、同社に在籍する特定技能1号のホアンさんにお話を伺いました。



家族を大事にする国の人間同士、もっと楽しくやっていきたい！

ホアンさん

2011年から同社で働き、社内ですでに「仕事のできる先輩」として頼りにされているホアンさん。日本語レベルが高く、語学上達のコツを聞くと、彼独自の工夫がありました。「仕事に就く前に日本語を学びますが、実際に現場へ出てみるとまるで通じません。でも、先輩からは『〇〇の道具を持ってきて』と、次々指示が飛ぶわけです。でも、その名称もわからない。そこで私はあえて『いや、ないですね。どこにありますか？』と聞き返すのです。すると、『ここにあるよ』と先輩は教えてくれる。そこで初めて道具の名前がわかり、そうしたやり取りを何度も繰り返して、徐々に道具や言葉を覚えていきました。そんな機転が利くホアンさんは、今では工務主任として現場を仕切りながらも、明るい性格から場を盛り上げる存在でもあるのだとか。また、旧正月には自身が企画した、日本人を招いてベトナム料理を振る舞う食事会も主催しています。「ベトナム人は何よりも家族を大事にしますが、日本人も同じだと思っています。そんな私たちなら仕事以外でも仲良くなれるはず。職場の雰囲気が明るいほうが、人生も楽しいですから」。そんなホアンさんの周りは笑顔でいっぱいです。

<https://jac-skill.or.jp/case/yamacon.php>

山形県外国人総合相談ワンストップセンターの開設について

山形県外国人総合相談ワンストップセンターを山形県国際交流センター内に設置いたしました。

山形県では、「出入国管理及び難民認定法」の一部改正に伴い、新たな在留資格である「特定技能1号」及び「特定技能2号」が創設されたことを踏まえ、山形県外国人総合相談ワンストップセンターを設置しました。県内の在住外国人や、外国人を雇用する企業などからの相談受付、生活・就労等に関する情報提供等を行います。

山形県外国人総合相談ワンストップセンター

外国人総合相談ワンストップセンターでは、2つの窓口を備え、以下のような相談に応じています。

外国人相談窓口

日本語、英語、中国語、ポルトガル語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ベトナム語により、相談員が日常生活の相談に応じます。

企業向け外国人相談窓口

行政書士会と連携のうえ、外国人を雇用する際の手続きや、在留資格の取得手続き、外国人留学生の採用手続きなどについて、相談に応じます。

観光情報

- 観光をお考えの方へ
- イベントカレンダー（2024年2月・3月）
- [山形県外国人総合相談ワンストップセンターの開設について](#)
- 指定管理者
- 山形県内主要観光地における空間放射線量測定結果
- 山形が誇る精神文化～やまがた出羽百観音～
- 山形県観光情報番組「ワクワク！やまが旅」を放送中です
- インバウンド向け山形県観光PR動画「myyamagata」/Yamagata Prefecture promotion video for international travelers
- 「山形ふるさと観光検定」の実施について